B!e 58

Art & Design Center News
2023_04 〜 2024_03

02-06P
特集「あいちのものづくり」
＜リテイル＞ 愛知県一宮市
＜石塚硝子＞ 愛知県岩倉市
＜尾張七宝＞ 愛知県あま市七宝町

07P
ちょっと行ってきました Vol.2
〜Gallery & SHOP VOU bldg./棒ビル〜

08-09P
2023年度 Art & Design Center レポート
- Stone Letter Project #6 Lost in Translation
- あのラボのいろいろ展
- ほんとこどもの家具
- 西山寛紀イラストレーション展

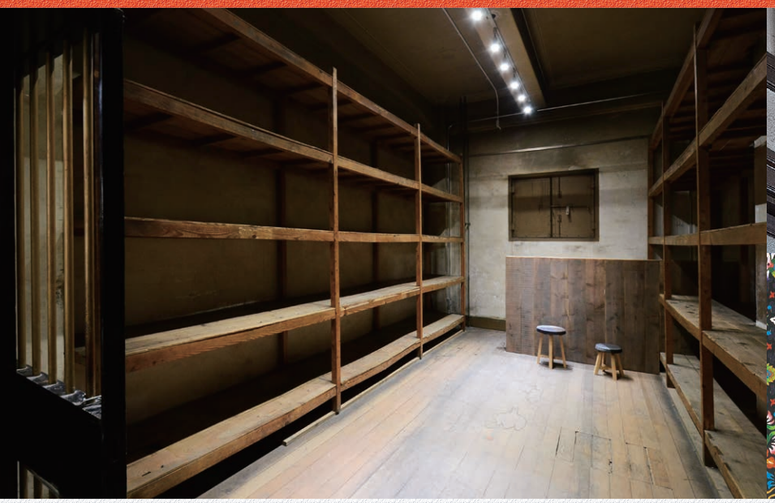
10P
B!e COLUMN

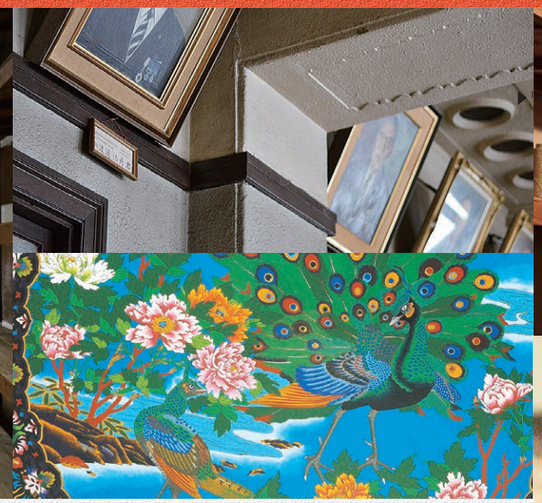
11P
芸術一話
2024年度 Art & Design Center展覧会スケジュール

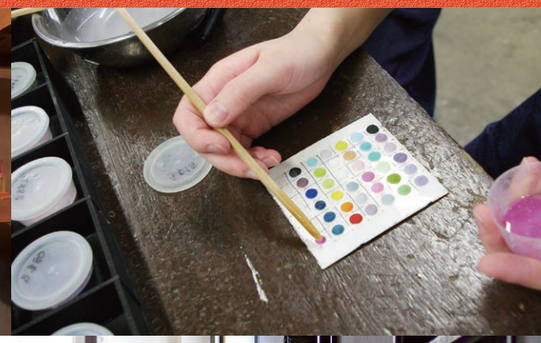
編集後記

- アート業界に携わって10年とちょっと、この度縁あって転職することになりました。名芸に入学した20年前を懐かしく思いながら、新しい人生へ旅立ちます。今までありがとう！（M.I）
- 呉服屋で着物を新調しました。抹茶好きの息子と一緒に反物選び、思い出の品になりました！（S.K）
- 前髪ありなしを毎回悩みます。1つのことで大きく印象が変わることは沢山あるけど、変わらない物を持ち続けていることは少ないのかな？（もうすぐB!eも60号）（J.I）
- NUA ART SHOPにはイエロードッグ（黄色い犬の置物）がいます。1年以上在籍していたので立派なギャラリースタッフの一員です！（M.Y）

名古屋芸術大学 Art & Design Center







NUA ART SHOP

Info

Art & Design Center West内
Open 12:15-18:00 /
木・日曜日定休
※お支払いは現金のみとなります

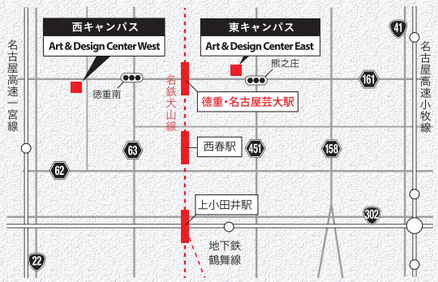
名古屋芸術大学 Art & Design Center
〒481-8535 愛知県北名古屋市徳重西沼65番地 TEL[0568]24-2897 FAX[0568]48-0173

B!e Vol.58 発行日 2024年2月15日
編集・発行 名古屋芸術大学アート＆デザインセンター
〒481-8535 愛知県北名古屋市徳重西沼65番地 E-mail adc@nua.ac.jp URL http://www.nua.ac.jp

2018 Printed in Japan © Art & Design Center, Nagoya University of the Arts

デザイン／印刷 サンメッセ株式会社

最寄りの交通機関をご利用の場合
名鉄犬山線（地下鉄鶴舞線乗り入れ）徳重・名古屋芸大駅下車
西キャンパスは 西へ約1,000m徒歩 13分
東キャンパスは 東へ約600m徒歩 8分



愛知県には繊維産業、陶磁器産業、伝統的工芸品などさまざまな地場産業があります。自動車製造や航空宇宙の部門についても盛んです。その理由として、日本の中央に位置し他の都市にもアクセスが便利な上、海にも面しているため貿易などにも有利な点が挙げられます。木曽川など大きな川や肥沃で大きな平野があることも一つと言われています。

多くの産業の中から、今号では一宮市を中心とする繊維産業、岩倉市にある総合容器メーカーの石塚硝子株式会社、伝統工芸の尾張七宝を特集します。

また、名古屋芸術大学では産学官連携プロジェクトを積極的に行っており、多くの企業や自治体と協力し色々な事業に取り組んでいます。それぞれのコースが行っている授業の様子もご紹介します。

特集 | あいちのものづくり

リテイル
ICHINOMIYA CITY-AICHI

名古屋芸術大学のある北名古屋市の隣に位置する一宮市は古くから日本最大の毛織物産地として知られ、一宮市、津島市、稲沢市、岐阜県羽島市などの一帯を総称した「尾州」は世界三大生地産地の一つと呼ばれています。

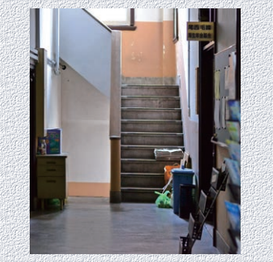
「Re-TAiL」の入っているビルは昭和8年（1933年）に尾西織物同業組合事務所ビルとして建てられました。経済産業省の「近代化産業遺産」に指定されますが、入居していた尾西繊維協会が移転し、解体の危機を迎えます。

そんな時、繊維の街にある繊維のビルなのに、取り壊されるのはもったいない。シーズンが終わると処分されてしまうサンプル生地がもったいない。一般の人の目に触れる機会のない上質な布を、実際に手にとって買ってもらえる場を作りたい、こんな思いから一宮市の毛織物メーカー・国島株式会社の7代目社長伊藤核太郎氏を中心に、地元の繊維メーカーの有志が出資して、2016年に「株式会社リテイル」を設立。ビルを丸ごと借り上げてテナントの誘致を行いました。現在はテーラーや洋服のリフォーム、カフェ、ギャラリーなどの店舗が入り、直営店である「アール・マテリアル・プロジェクト」では一般に流通しない機屋の布のサンプルを販売しているため、全国からお客さんが訪れます。

生地はもちろん歴史ある建物も見所の一つ。

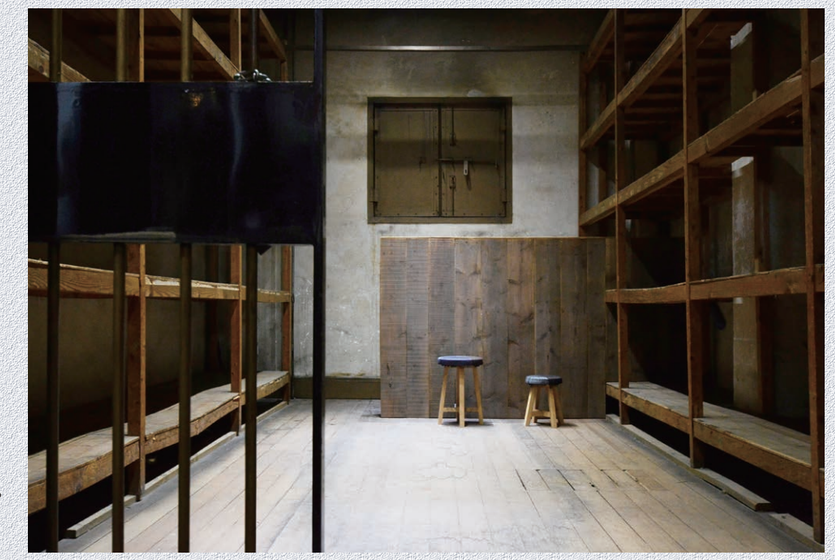
外壁の茶色のスクラッチタイルが昭和の雰囲気を醸し出し、一歩入れば床のモザイクタイルが目を引きます。

中でも階段を登って3階にある會議室は当時のままのような圧倒される空間。照明や柱、壁など、隅々まで深い歴史を感じることができます。



書庫と〇〇

ICHINOMIYA CITY-AICHI



1階にある『書庫と〇〇』は、旧尾西繊維協会ビルの文書庫を活用し、”尾州 を楽しむ事”を目的としたオルタナティブスペースです。

20平方メートルほどの小さなスペースですが、古い木製の棚を活用して定期的にアーティストの作品を展示しています。作品によってがらりと変わる書庫の雰囲気は必見。

山本マヤカ『書庫と遊戯』／2023.02.04_02.19

宇留野圭『書庫と構造』／2023.03.18_04.02

Re-TAiL（リテイル）
愛知県一宮市栄4-5-11
TEL 0586-59-2105
http://re-tail.jp/

＜テキスタイルデザインコースの授業の様子＞

尾州産地×名古屋帽子プロジェクト2023

テキスタイルデザインコースの産学連携授業は、2005年から有松絞り産地、2009年より名古屋帽子、2016年からは尾州産地とそれぞれ継続して行っています。

今年度は尾州産地で布をデザイン、その布を使った帽子をデザインし、名古屋市の帽子問屋である林八百吉株式会社が製造・販売するプロジェクトを、3年生18名が5グループに分かれて進めました。

前期は、帽子工場見学と帽子のデザイン～ムードボード作成～布工場見学と布のデザイン～布工場にて生産の立ち合いを行いました。後期には、完成した布と帽子のデザイン案をプレゼンテーション、5型7案の採用が決まり、夏には林八百吉株式会社の札幌市直営店で販売します。

この授業では、学生の考えやアイデアだけではなく、客層に合うデザインやコスト面への配慮、工場への的確な指示など、様々な場面で客観性を求められます。学生たちは授業の中で、社会に向けたデザインを理解していきました。

デザイン領域テキスタイルデザインコース 教授　扇千花

完成した帽子

布工場の見学

石塚硝子

IWAKURA CITY-AICHI

創業200年の歴史を持つ、愛知県岩倉市にある石塚硝子株式会社。1819年に初代の石塚岩三郎が岐阜県可児市でガラス製造を始め、1961年に現在の岩倉市へ工場を移転しました。食器事業、ビン事業に本格的に参入し、食器ブランドの「アデリア」もこの時に誕生し、当時どの家庭にも一つはある定番のグラスウェアとなりました。そのレトロな器の一部は、2018年に「アデリアレトロ」として復刻され人気を博しています。

石塚硝子株式会社
愛知県岩倉市川井町1880番地
http://www.ishizuka.co.jp/

＜工芸コースの授業の様子＞

石塚硝子×名古屋芸術大学 石塚硝子グループプロジェクト2023

2023年9月22日(金)～27日(水) Art & Design Center West

日本屈指のガラスメーカー石塚硝子株式会社とそのグループ会社の鳴海製陶株式会社と本学工芸コースは、「ギフト」を切り口にアートの視点で陶・ガラスの素材をめぐり、素材研究や作品制作に取り組み、その成果展を開催した。学生が制作した作品とともにそのプロセスをまとめたボードを提示、この取り組みの反省点や今後の可能性、課題を盛り込んだ。会場には陶・ガラスにまつわる材料、道具などを持ち込み、制作現場さながらの様子を再現、そして、学生や企業の方々とのやりとりがどのようになされたか、7月末に行われた最終報告会での各企業と学生の対話した映像記録を投影した。また、やきものとガラスをめぐる展覧会として、工芸コース学生が日常に制作する作品も展示した。2023年度前期課題として大学外の大手企業2社と試行錯誤した取り組みが一堂に介して並んだ風景からは、多視点のチャレンジが伺えた。この経験は今後のそれぞれの可能性の一つとして「ギフト」になっていくに違いない。

美術領域工芸コース 准教授　中田ナオト

「石塚硝子とガラス・やきものをめぐる展覧会」の様子

制作したもの

ワークショップ「“アデリアレトロ”のMYグラス作り」に参加しました！

石塚硝子が展開する家庭用食器の“アデリアレトロ”は、レトロなプリント柄として女性を中心に大人気！ アデリアレトロのグラスに使われている花や動物のモチーフを、好きな形のグラスに転写するワークショップに参加してきました。

まず用意されたモチーフを好きなだけ選び、グラスに転写していきます。転写シートは水に浸けると台紙から剥がれます。それをグラスに貼っていくのですがシワなくゴミも入らないように貼るのが少し難しく、しかしここでキレイに貼っておかないと焼き付けた時にかすれるなど仕上がりが変わってきてしまうそう。デザインもシンプルに少なめにするのか、にぎやかなものにするのか悩みどころ。所要時間は2時間でしたが、こだわり始めるとなかなか終わらず、時間いっぱいまで制作を行いました。

貼り終えたグラスはスタッフの方が石塚硝子へ持ち帰り、焼き付けをして納品となります。

自分だけの「MYグラス」、楽しく作ることができました！

尾張七宝

AMA CITY SHIPPOCHO-AICHI

日本の七宝は7世紀頃につくられた古墳から出土したものが最も古いものです。その後、七宝は寺院や城の建具の一部にしばしば使われていました。

日本で七宝が広く作られるきっかけとなったのは名古屋市に住んでいた梶常吉という人物が江戸時代末期の1833年に七宝の作り方を発見したことから始まります。以後、急速に七宝の製造が広まり、愛知県尾張地方は日本の七宝製造の中心地となります。

19世紀後半から20世紀の初めにかけて尾張七宝は様々な工夫を加えて作品を作り続けてきましたが、第二次世界大戦中の生産中断などを経て、現在では失われてしまった技術もありますが、日本を代表する伝統的な工芸品として、1995年には経済産業省指定の伝統的工芸品となっています。（あま市七宝焼アートヴィレッジ ホームページより引用）

七宝焼はガラス質の釉薬を銅や銀の金属素地に乗せ、花鳥風月、風景などの図柄をあしらったところに特徴があります。「七つの宝を散りばめたように美しい」という意味から「七宝」と名がついたと言われており、特に図柄の輪郭となる部分に銀線を施して細やかな模様を表現した有線七宝は尾張七宝の代表的な技術です。

尾張七宝は地域の伝統工芸品として根付き、1995年には国の伝統的工芸品に指定されました。制作には高い技術を要するため、職人の高齢化による技術力、生産力の低下や後継者不足も危ぶまれましたが、近年では新しい感性を持つ若い職人も少しずつ増えてきています。古くからの伝統を受け継ぎながら、次世代へと繋げていく。伝統工芸のこれからに期待が高まります。

花鳩図花瓶（明治）

孔雀に牡丹文大皿（明治）

<メタル＆ジュエリーデザインコースの授業の様子>

産学連携授業尾張七宝プロジェクト

「尾張七宝」という言葉をご存知ですか？第3回パリ万博金賞を受賞、ヨーロッパの人々を魅了した、銅素地にガラス釉薬が乗った繊細な柄と技術が際立つ日本の工芸品です。

あま市七宝焼アートビレッジには海外から里帰りした尾張七宝の名品が展示され、メタル＆ジュエリーデザインコースでは2019年から尾張七宝を学び、作り、販売する事を目標に産学官連携授業を行なっています。学生は職人さんから銀線立てや施釉、焼成を学んで、伝統工芸品の良さを生かし現代に合った尾張七宝作品を作るべく取り組んでいます。

尾張七宝組合の新作展に毎年展示参加、2021年には伝統工芸EXPO国際展示場で展示、2022年名古屋東急ホテル2Fショーケース、今年度も名古屋三越美術画廊や古川美術館に展示をして、学生のデザイン力、色彩力で広く尾張七宝を知って貰う活動をしています。

デザイン領域メタル＆ジュエリーデザインコース 教授　米山和子

あま市七宝焼アートヴィレッジ

愛知県あま市七宝町遠島十三割2000
TEL 052-443-7588
https://www.shippoyaki.jp/

ちょっと行ってきました◎

GALLERY&SHOP VOU bldg./棒ビル

2023.9.11

VOl2

今回は京都にある「セレクトショップ＆ギャラリーVOU棒」へ行って来ました！

場所は四条駅から約7分、老舗のライブハウス「磔磔（たくたく）」の横、赤い扉が目印です。
重たい鉄とガラスの扉を開けるとIFにはギャラリーがあり、定期的に滞在制作や展覧会が開催されています。2Fでは若手アーティストによる作品や、VOUオリジナルのグッズが並びます。

そこには何か「VOUっぽさ」を感じるグッズや作品が集められ、きっと1つは気に入った作品が見つかります。

VOUの取り扱う商品は店主が気に入った作家の作品や、アーティストがアーティストを連れて来て広がった繋がりと出逢いから。

お店の3分の1をしめるオリジナル商品は、色々なアーティストと話をしながら生まれてきた商品。
店主がイメージするものを形にしたり、話の中から商品となったものも、、スーパーのカゴは人気商品。

▲カゴ（公式Instagramより）

気になった商品紹介

ステッカー

店名の「VOU」がステッカーになった商品。
デザインもおしゃれで何枚も欲しくなってしまう。
記入表でほしいステッカーを選んでレジにてパッケージしてもらえる。

バンダナ

バンダナの中には「VOU」の住所、オンライン情報が。
カラーはもちろんデザインのインパクトもあり店内でも目を引く。

VOU bldg./棒ビル 店主　川良謙太

大学在学中のゼミで「人が集まる場所を作ろう」というテーマの授業があって、面白いものを作っている人や作品を発信できる場所にしたら、人が見に来て、違いに来てくれるんじゃないかと企画を立ち上げ、在学中の4年生の時に一年間限定の小さなお店を始めました。
それをやりだしてから僕がもうこれが楽しい！となって、自分のスペースを持ちました。
店の名前はアーティストと何人かで一緒に喋っていた時に、男の人がおぉってなる雑貨名がいいなって、、、それでなんか、VOUって良くない？みたいな。普通に棒。強くない？って。棒に関わると強くなる。みたいな。

Information

GALLERY&SHOP VOU／棒

京都市下京区筋屋町137
13:00〜19:00／定休日 木曜日
075-744-6942／info@voukyoto.com
https://vouonline.com/

2025年の5月で10周年を迎えるVOU。
人と人との繋がりがたくさん集まった店内には、商品かインテリアか区別がつかない程多種多彩なモノが並べられ、店主の趣味がVOUの空間を作り上げている。
お店の商品買う、ギャラリーを訪れるだけでなく、どうか居心地のいい秘密基地のような自然と人が集まる空間として存在している。

W Report "Stone Letter Project #6 Lost in Translation"

2023年5月6日[土]ー5月16日[火] 12:15ー18:00
Art & Design Center West

Stone Letter Projectは石版印刷の石版を使ってコミュニケーションを図るプロジェクトである。プロジェクトが始まった6年前は研磨した石版をアーティストに送り(渡し)手紙の返信を待つように石版への描画を待ち、我々(LbH)が製版、印刷を行うというようにまさに手紙のやり取りのようだったが、回ごとに新しいテーマを掲げ6回目となる。今回は「伝えること(教育)」をテーマにした。大学で石版を学び、現在は教える立場にいる我々だが、果たしてうまく伝えることができているのだろうか、あるいは我々が学んだことは正しかったのだろうか。石版印刷についてのリサーチを重ねるごとに、その情報量の多さと我々が知っている(学んだ)ことの狭さを知り、伝える(教える)際の情報の脱落を感じていた。それを知るとネガティブな感情にもなるが、大学内のギャラリーという教育の現場での展示機会を得た今回は、ギャラリー内に工房を設置し、ワークショップや講座を通じて、我々が出来ることを実践しポジティブに伝えることを目標に据え、実行した濃密な10日間であった。

＊LbH(Ligheter but Heavier／重くもあり軽くもある)
片山浩、衣川泰典、坂井淳二、田中栄子によりリトグラフをより考察し新たな展開をするアーティストグループとして2016年に結成。

デザイン領域イラストレーションコース／
ヴィジュアルデザインコース 准教授　片山 浩

E Report ほんとこどもの家具

2023年7月21日[金]ー7月26日[水]
Art & Design Center East

子どもは純粋であり、直接的な意見や行動で示してくれる。楽しいもの・興味の引くものにはたくさん集まっていき、言葉にならない反応や我先にと取り合いをしながら楽しんでくれる。

そんな子ども達に対して『本と子どもが出会うきっかけとなるような家具』を学生達に提案してもらう。まず初めに子どもの生態を知るためにワークショップを実施することで『子どもとは何か』をリサーチしていく。今年は地域の人に開いてみてはと考え、江南市図書館で実施することとした。

学生達は自分達が子どもの時の事を思い出しながら、試行錯誤し二つのワークショップを考えた。巨大なブロックを作り『みんなで秘密基地を作ろう』や、学生達が支点となり点と点を紐でぐるぐると辿っていく事で描かれる『ヒモ絵で描こう』を行った。子ども達同士も初めて会う子たちばかりで初めはお互いに警戒していたが、学生達が一緒に混ざり作り始めると次第に協力しより大きく、より高く、とみんなで作り始めたり「次はココだ!」と叫んだり。学生達はそんな姿を観察し子どもの生態を、遊びを通じて探っていき家具の制作へと繋げていく。しかし、遊びの要素を強くしすぎると家具ではなく遊具へとなってしまう。子どもの気を引くことはうまくいっているのだが、どこまでが家具でどこからが遊具なのかそこの線引きが難しい。

そして、バウムクーヘンのような形に、パイプでできたフォークや本がその間に挟っておりそこから本を探し出す家具やハンガーのようなものに本を挟んでいく家具、実際に子どもがネットの中に入り揺られながら本を読む家具など18種類の家具が出来上がった。

本学の東キャンパスギャラリーと清須市図書館で実際に子供達に使ってもらいながら参加型の展示を行い、短い期間だったがかなりの来場者の方に楽しんでいただいた。

そこでは学生本人が作った家具の説明を行い、来場者から色々な意見をもらった。

時に子どもは学生の想像を超えて別の使い方を考えてしまう。そんな姿を見て何が足りなかったのか、もっと頑丈に作らないといけなかったのか。

楽しい以外のリアルな実体験がまた、今後デザインしていくものに還元されて成長につながっていくのだと思う。

デザイン領域スペースデザインコース 講師　西岡 毅

W Report 「あのラボのいろいろ展」created by anno lab and 名古屋芸術大学

2023年10月28日[土]ー11月13日[月]
Art & Design Center West / East

わかりにくい迷宮のような空間。彷徨った展示の最後に、ようやく作家たちの想いや展示全体の構造が、模型と繋がっている紐たちによって明かされます。

本展覧会は、「あのラボ」を知らない人たちに向けて説明的にあのラボを知ってもらおうとするのではなく、先入観ないままに展示の奥へ進んでいくだけであのラボに入っていくような、あのラボの日常でありADセンターにとっては非日常的な空間を目指しました。

そして「いろ・いろ」という作品では、anno labの「いろ・しき」というインスタレーションをベースに、特別講義をきっかけに手を上げてくれたコース様々な学生、卒業生とその娘さん、竹内創先生率いるphono/graphにも参加いただき、本展覧会ならではのコラボレーションを実現しました。

私自身が名芸の卒業生でありanno labメンバーでもあることから、anno labの広い解釈を生む光の現象をベースとした作品空間と、名芸生のコース様々・色も様々なクリエイティブが重なって、どちらかだけでは実現できない特別な空間が生まれました。

今回の展示を通して「あのラボのいろいろ」な要素から学生たちに向けて「日々、作ること」を小さな思いつきから壮大なプロジェクトまで同じように向き合い生活する楽しさが、少しでも伝わればと願い展示しました。

そして何より、この展覧会は名古屋芸大で働いている友人や恩師たちがいなければ実現しませんでした。本展覧会開催に協力していただいた関係者の皆様に御礼申し上げます。

本展覧会にあったすべての作品に作った人の背景や想いがあり、それらがひとつの空間としてつながっていたように、この展示をきっかけに誰かと何かを作ることへの新しい日常が生まれたらと思います。

anno lab 吉田めぐみ

W Report 西山寛紀イラストレーション展

2024年1月5日[金]ー1月15日[月]
Art & Design Center West

シンプルかつ大胆な構図、鮮やかな色彩、それでいて誰もが何気なく過ごす日常がそこには描かれている。今、日本のみならず世界からも注目を集めるイラストレーター界のトップランナー西山寛紀の作品が愛知で、しかも一度に沢山観られるとあって、Art & Design Center Westは学生のみならず学外のお客さんでも連日賑わいを見せていた。

展覧会期間中に催された西山氏によるギャラリートークではグラフィックへのこだわり、クライアントとのやりとりの中で生まれた新たなアイディア、印刷についての裏話などその洗練されたグラフィックのイメージとは違ったクリエイターとしての熱を感じることができる非常に充実した内容であった。

展示の構成は至ってシンプルで、ポスターをきちんと均一に壁に貼り、グッズや書籍を展示台に静かに並べる。展示作業を終え、ギャラリーをぐるっと見渡すとあまりにも贅沢な空間が立ち上がっていた。強度を持つ隙のない作品というものはただそこに存在しているだけで場の空気を変えてしまうのだと、西山作品の奥行きと美しさにただ感服するばかりであった。

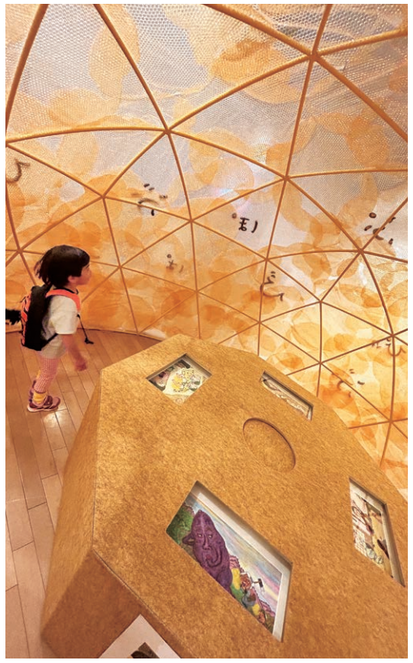
歴史的名画、アメリカのマイナーバンド、北欧のプロダクトデザイン、河原に落ちている石、西山作品はイラストレーションの文脈のみでは語られない無数の要素によって紡がれている。その要素ひとつひとつが色彩を持つレイヤーとして重なり、画面を構成している。これからも西山氏が産み出す世界は観る人を魅了し続けるであろうと確信する展覧会だった。

デザイン領域イラストレーションコース 講師　佐久間 友香

B!e column

アート＆デザインセンターのスタッフが気になるアートやスポット、カルチャー等を紹介します

市原 萌絵



過去に働いていた美術館で、子ども向けのワークショップやギャラリートークを担当していました。その頃自分には子どもはおらず、子どもって大体こんな感じかな？と想像で仕事をしていた気がします。数年後出産し子どもと関わる毎日の中で、子どもとは日々何を思い何を感じて生きているのかが少しずつ見えてきました。大人が考える以上にたくさんのことを見て想像していること。記憶力がありこちらが忘れてしまったことでも心に残っていること。導かれなくても自分で答えを出せること。子どもはもともと大きな力を持っており、大人は少しサポートしてあげるだけで十分であること。毎日保育園での送り迎えで会う子どもたちの成長を見ることは楽しく、たくさん話しかけてくれるみんなを見ては元気に大きくなってほしいと心から思います。

自分の子どもの頃は親が芸術に興味のない家庭だったので、美術館や博物館に連れて行ってもらったことはありませんでした。一人で行動することの増える高校生ぐらいから美術館に通うようになり、今でも子どもを連れてあちこち行きます。大きくなった時少しでも心に残っていたら嬉しいけれど、そうならなくてもまずは自分が一緒に行けることを楽しんでいます。

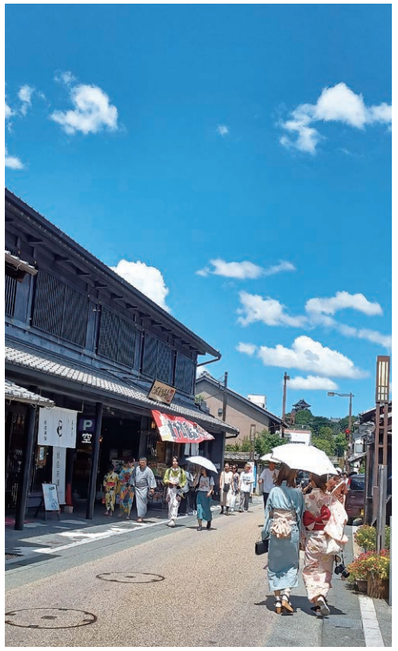
清須市はるひ美術館の「谷川俊太郎　絵本★百貨展」(2023年9月9日～11月26日開催)は、絵本の原画やインスタレーション作品、振ると音が鳴る異国の楽器、谷川俊太郎さんの読み聞かせによる絵本の映像作品など、子どもが楽しめる展示がたくさんありました。4歳の我が子はドーム状になったインスタレーションの作品を気に入り、中から透けて見えている外に吊るされたひらがなを出入りしながら見ていました。元永定正さんと谷川俊太郎さんの絵本「もこ　もこもこ」のアニメーションは、床に置いてあるクッションに寝そべり何周も見ていました。一緒に同じ作品を観ることで(これにこんなに興味を惹かれるんだ)とか(描かれているこんな小さなモチーフに気づくんだ)などと自分自身も新しい発見がありました。

子どもには自分で好きなものを見つける才能があるはずなので、親にできることは色々なものを見せて興味の種まきをしてあげることぐらいかなと思っています。それと同時に、自分が興味を持つものもまだまだ広げて学んで行きたいです。一生勉強、一生青春！

小川糸著：『喋々喃々』を読んで

神谷 思摩

小川糸さんの小説はとても繊細で、情景が色付きで浮かぶ物語だ。『喋々喃々』は残しておきたい日本の文化がぎゅっと詰まった作品だった。話の主人公は、東京下町でアンティーク着物店を営んでいる。いつも和服ですごし、お客様の喜ぶ顔を思い、端切れでポケットティッシュカバーを作る。そして、暑中お見舞いを一人一人に手書きで書く。丁寧な暮らしという言葉がぴったりの女性だ。あらゆるものを愛す姿は、自然の物はひとつとして同じものがないことを思いださせてくれる。しかし時代に逆らった生き方をしているのでなく、現代でも視点を変えれば、日本らしい豊かな生き方や、人とつながるの贅沢さが再確認できる本。日々着物で過ごす主人公をみて、自分も着物が着たくなった。物語では綿の着物を自分で洗う場面もあり、着物は堅苦しいものというイメージが一新した。しかし、和装はいざ着ようと一歩を踏み出すのに時間がかかる。着付けも手間だし、それを着て外に出る勇気もいる。着物が箪笥の肥やしになっている方も多いのではないだろうか。最近では、着物を預かり、虫干しと保管をしてくれるサービスもある様だ。そして預かってもらった着物をレンタル貸出すれば、お小遣いにもなるらしい。また、海外では日本アニメの影響もあり、着物の注目度が高まっているそうだ。ネットを通じて着物を購入し、イベントやSNSで交流する方もみえる。私たちも今一度、着物と向き合ってみてはどうだろうか。そして、和装の似合う町並みや、イベントに出かけていけば、着物が身近なものになるかもしれない。着る場所、着る機会が増えていき一人二人と文化を温めてくれる方が増えれば、日本固有の上品さや優しさを残していけると思う。



芸術一話
ART WORDS FROM THE ART WORDS
33

Iwata Syouten gallery

岩田商店
三重県いなべ市北勢町阿下喜1051-10
https://matsukazecompany.com/iwata

岩田商店

〝わくわく〟を理念の中心に置く松風カンパニーでは、農園、食堂、ドイツパン屋、カジュアルフレンチ、コーヒーハウス、そしてギャラリーという現在6事業を小さな町三重県の最北端に位置する〝いなべ市〟で展開しています。

初めは農園を営む相方の寺園に誘われて移住をして始めた食堂「上木食堂」をほぼほぼ一人で始めました。そう、庭としては飲食の庭の人間です。

ただ、幼少期からものづくりが大好きでアートや工芸、洋服や音楽といった〝カルチャー〟と呼ばれるものにたくさん触れてきました。

そして、時は経ち夢の独立。飲食を始めたのも〝間口が広い〟という理由でした。飲食店を開いて、店内で作品の発表や様々な企画等なんでもできる、ならまず手に職で飲食だ！と志したのが21歳。

そして、現在35歳。様々な特殊能力を持った仲間が集まりコミューンを作るかのように事業展開してきました。今が思い描いていた通りにいってるのか否かは終末の日に振り返ってみるとして、僕にとっての〝芸術〟の話。

近年のコロナウィルスのパンデミックやインボイス制度などの〝副産物〟として〝文化〟〝芸術〟等のあり方、必需性が見直された気がする。それは僕にとって名古屋という地方都市から本当の〝地方〟いわば〝田舎〟に移住した7年前に自分の中に湧いてきた議題でした。

自分の答えとしては、もちろんYES。必要です。

今住んでいるいなべ市は鈴鹿山脈の麓に広がる町です。山も、川も、森も、田んぼも畑も、生活圏内に十分というほどあります。言わば〝自然〟に満ち溢れています。しかし、そこに身を置いてみて気づいた足りない物、それが〝文化〟でした。僕が感じたのはカルチャーと言った方が正しいかもしれません。

人の手によって生み出された、感性をくすぐられるような、可愛い、カッコいい、面白い。

そんなモノに触れられる機会をこの〝田舎〟にも生み出したい。何より自分の子供やこの地に生まれ、育っていく子供達にその〝選択肢〟を与えたい。

そんな思いで上木食堂を立ち上げた翌年。

食堂から歩いて3分のところにある古民家をリノベーションして「岩田商店」は生まれました。それからというもの、県内外のたくさんのアーティスト達の展示を毎月入れ替わりで企画しています。

正直なところ文化を〝耕す〟ことの大変さが身にしみる事も多いです。ただ、発表するアーティストはもちろん、僕個人やスタッフ達も毎月わくわくしながら搬入設営をしているのできっとこの先も大丈夫なんだろうなと思います！

そして、ものを作ったり、表現したいことのある人はどんな世情だろうと思いっきりやれば大丈夫だと思います！とりあえず、全部大丈夫なんだと思います！

2024 04- 2025 01 EXHIBITION SCHEDULE

開館　12:15-18:00 / 木・日曜休館
展覧会によって変更になる場合があります。
入場無料　どなたでもご覧いただけます。

スケジュール、タイトルは変更になる場合がありますので、ご確認ください。大学行事のため、日曜以外も休館する場合があります。

Art & Design Center West　西キャンパス

〒481-8535 愛知県北名古屋市徳重西沼65番地 B棟1階

4/ 1(月)→ 4/17(水)	デザイン領域レビュー選抜展
4/19(金)→ 4/24(水)	ILコース3年生展／大文芸展2／版画部展2023
5/ 8(水)→ 5/20(月)	Art & Design Center 企画展「PRINTED MATTER」
5/24(金)→ 5/29(水)	アークリ博覧会2024
5/31(金)→ 6/ 5(水)	現代アートグループ展／リバーシブル展／ダサいの極み展
6/ 7(金)→ 6/12(水)	NIHONGA exhibition／スギナ日本画展
6/14(金)→ 6/25(火)	あいちアール・ブリュット連携展示(仮)
6/28(金)→ 7/ 3(水)	書道アート展12／コミュニケーションデザイン&アート演習展示／名古屋芸大×名大博物館展
7/ 5(金)→ 7/10(水)	くうねるところにすむところ展 2024／2024年度前期交換留学生展
7/12(金)→ 7/17(水)	【工芸リレー】CONNEXT2024　陶ガラス教育機関講評交流展
7/19(金)→ 7/24(水)	プレソツ展
7/26(金)→ 7/31(水)	【工芸リレー】テキスタイルデザインコース　前期制作展　「素材展」
8/ 2(金)→ 8/ 7(水)	【工芸リレー】「素材展」メタル&ジュエリーデザインコース
9/20(金)→10/ 2(水)	名古屋芸術大学 美術・デザイン領域 教員展
10/ 4(金)→10/ 9(水)	大学院　同時代表現研究科・岡川中田松岡ゼミ室展
10/11(金)→10/16(水)	日本画コース展
10/18(金)→10/23(水)	助手展
10/28(月)→11/19(火)	Art & Design Center 企画展
11/22(金)→11/27(水)	MCDデパートメント
11/29(金)→12/ 4(水)	先端メディア表現コース展
12/ 6(金)→12/11(水)	芸術教養レビュー3年生展(仮)／洋画コース2・3年生選抜展
12/13(金)→12/18(水)	CAP展／2024年 後期交換留学生展
12/20(金)→12/25(水)	工芸展2024(仮)
1/ 6(月)→ 1/16(木)	Cygames背景美術展2024-2025

Art & Design Center East　東キャンパス

〒481-8503 愛知県北名古屋市熊之庄古井281番地 6号館1階

4/12(金)→ 4/17(水)	芸術教養レビュー選抜展
4/19(金)→ 4/24(水)	プロジェクト2成果展・回想法展
5/10(金)→ 5/15(水)	アラムナイコレクション展(仮)
5/17(金)→ 5/22(水)	焔(えん)
5/24(金)→ 5/29(水)	池田考作個展(仮)
5/31(金)→ 6/ 5(水)	Can and I Exhibition(仮)
6/ 7(金)→ 6/19(水)	記憶して(仮)
6/21(金)→ 7/ 3(水)	19,20
7/ 5(金)→ 7/10(水)	書道アート展12
7/12(金)→ 7/17(水)	ほんとこどものかぐ展
7/19(金)→ 7/24(水)	こども×Fukushi×art作品展(仮)
7/26(金)→ 7/31(水)	芸術教養レビュー1・2年生展
9/20(金)→ 9/25(水)	Rolling around(仮)
9/27(金)→10/ 2(水)	ハヤシタイチ展2
10/ 4(金)→10/ 9(水)	信じるトキメキ(仮)
10/11(金)→10/16(水)	INSTALLATION2(仮)
10/18(金)→10/23(水)	助手展
10/28(月)→11/19(火)	Art & Design Center 企画展
11/22(金)→12/ 4(水)	新博物誌展 2024
12/ 6(金)→12/11(水)	舞台模型で見るいくつかの物語(仮)
12/13(金)→12/18(水)	SD展(仮)
1/10(金)→ 1/15(水)	留学生別科作品展

最新の展覧会スケジュールは
インスタグラムをご覧ください